

### 第3回 第2期岡崎市スポーツ推進計画策定委員会 議事録

日 時：令和元年8月1日（木） 14時00分

場 所：岡崎市福社会館 3階視聴覚室

出席者：（委 員）堀越哲美委員、上原三十三委員、廣美里委員、三井政昭委員、  
杉山まゆみ委員、土赤光宏委員  
（事務局）社会文化部 河内部長、スポーツ振興課 鍋田課長、山田副課長、大竹係長、  
音羽係長、稲吉係長、野田主査、西田事務員

傍聴者：なし

資 料：次第

- 資料1 第2回策定委員会における意見概要
- 資料2 現行計画の実施状況の総括
- 資料3 スポーツに関するアンケート 調査結果（確定値）
- 資料4 第2期計画の施策体系案（参考．SWOT分析による地域課題）
- 資料5 計画延長版のイメージ
- 資料6 関係団体ヒアリングの実施について

次 第

#### 1. あいさつ

堀越会長（内容省略）  
河内部長（内容省略）

#### 2. 議題

##### （1）報告事項

- ① 第2回策定委員会における意見概要（資料1）
- ② 現行計画の実施状況の総括（資料2）
- ③ アンケート結果によるスポーツ実施率の確定値（資料3）

・事務局より資料1・2・3を説明。

〈以下、各委員の意見等〉

堀越会長 ・資料1は各委員からのご意見です。それぞれでご確認いただき、何かあれば事務局に連絡いただきたい。

・資料2は現行計画の実施状況の総括で、今後の方向性を矢印で示している。いずれも現状維持または右肩上がりとなっているが、この点について何かご意見・ご質問があればお願いしたい。

上原委員 ・資料2．1－（3）「③小中学校との連携」に課題があったと説明があったが、何かトピック的な取り組みがあれば教えてほしい。

事 務 局 ・学校との連携に関して、市では岡崎市民体育祭を毎年開催している。小学校区

ごとに7つのブロックに分けて、対抗戦方式で実施している。

- ・中心はリレー競技となるので、学区で足の速い子を選出してチーム編成してもらっているが、選手の選考が大変で人が集まらないという意見をいただいている。一部ではあるが否定的な意見もあり、競技内容の見直しも含め検討は必要となっている。行政と学区との連携で課題が出てきたととらえている。
- ・また、小中学校との連携にかかわる問題では、部活動の見直しの問題がある。今後、自由参加となった場合には、児童・生徒たちの受け皿を考えていかななくてはならない。

堀越会長 ・5－（2）「スポーツに関する情報提供の充実」に関してはどのようにとらえているか。

事務局 ・市からの情報発信としては、ホームページ、市政だよりなど媒体が限られている。愛知県ではメールマガジンなどに取り組んできており、市としてももっと知れわたる方法を考えていく必要があるととらえている。

堀越会長 ・資料3のアンケート結果によるスポーツ実施率の確定値について、ご意見があればうかがっておきたい。

廣 委 員 ・2018 年調査は傾斜抽出を行っているとのことであるが、国の調査は傾斜抽出を行っているのかどうか確認したい。

事務局 ・国はインターネット調査である。その点が大きな違いがある。一概に同じやり方とは言わない。分母の数も全く違う。

・国のインターネット調査は、年齢・性別ごとに回答数を決めており、回答数に達した時点で調査を終えるという方式を採用している。無作為で選ばれた方が回答しているわけではない。

・私見になるが、国の調査はもともとスポーツに関心のない方はあまり回答しないと考えられる。ただし、それが国の 55.3%と市の 38.6%の差になっているとは断定はできない。

・単純に国の調査値と比較するには厳しいととらえている。

上原委員 ・週1回以上という定義は、国と市の調査で何か違いはあるのか。

事務局 ・同じである。

堀越会長 ・県内の他の自治体が調査しているスポーツ実施率との比較ができると、岡崎市の状況を見るうえで参考にできると思われる。

事務局 ・県の数値は岡崎市よりも少し低い値となっている。

・最近では西尾市などがスポーツ推進計画を策定しているので、そうした自治体の数値を調べてみたい。参考までにお示しできればと思う。

土赤委員 ・資料3の2頁、（5）その他市のスポーツ施策のところで、総合型地域スポーツクラブについて、「まったく知らない」が78.1%とある。

・これは、NPO 法人ワスパを知らないのか、総合型地域スポーツクラブのことを知らないのかどちらだろうか。

事務局 ・アンケート票では、この問いの下に説明文を入れており、そこに NPO 法人ワス

パのことについても解説している。なので、アンケートをしっかりと読んでいる方は総合型地域スポーツクラブのことも、NPO 法人ワスパのことも分かった上で回答いただいていることになる。

- ・ただし、ワスパも教室は「フレッキア」という名称を使っているので、そちらの方で認知されているケースもあるかもしれない。

三井委員

- ・総合型地域スポーツクラブをどれだけ理解しているかについては、この調査の通りで全く知らないのだと思う。
- ・総合型地域スポーツクラブの中には、本来の理念に合致していないように思えるクラブも存在する。
- ・元々は地域の住民が集まって、自分たちでやりたいスポーツをやりたい時にやれるように、その企画・運営も自分たちでやるというのが本来の総合型地域スポーツクラブの理念である。次期計画では、総合型地域スポーツクラブのことをしっかりと謳わないといけないと思う。
- ・半田市や豊田市の総合型地域スポーツクラブは、地域の人たちが集まってやっている。市が地域の公民館などを活動拠点として積極的に提供しているから、地元住民が集まってやっている。岡崎市には今それがない。お年寄りのスポーツはとくにそうで、自分たちで集まってやるとよい。

杉山委員

- ・他の市町へ行くと、総合型地域スポーツクラブについての報告事項を聞くことがある。しかし、岡崎市のスポーツ推進員には総合型地域スポーツクラブについての認識が全くない。
- ・20 年くらい前に市から説明を受けた覚えがあるが、今のスポーツ推進員は総合型地域スポーツクラブについての説明を受けた経験がないので認識はない。それに対する対策は必要と思う。

三井委員

- ・総合型地域スポーツクラブについて、一般市民の方に理解いただいて、一般市民の方々がつくる。それを基本に新計画に盛り込めるとよいと思う。

## (2) 審議事項（意見交換）

### ① 第2期計画の骨子・体系案について（資料4）

- ・事務局より資料4を説明。

〈以下、各委員の意見等〉

堀越会長 ・資料4、第2期計画の骨子・体系案についてご意見を頂戴したい。

三井委員 ・1「(2) スポーツができる多様な機会・場づくり」は非常に大事である。

・河川敷でゲートボールやるとか、最初は小さくていいから、地域住民が自分たちで集まってスポーツに取り組めるように方向づけたい。子どももお年寄りも取り組むようになれば、コミュニティ形成の意味からも有効である。

・「⑤総合型地域スポーツクラブの活用」とあるが、「活用」ではなく「推進」にしてもらって、今後はもっとクラブをつくろう、市の施設を有効に活用して取り組んでくださいとしていきたい。

・子どもたちのスポーツの機会を多くすることは必要である。部活動が学校体育から引き離される。社会体育で受け止めないといけない。

・今までは部活動で行っていたが、市によっては小学校の部活動はなくなる。本当になくなったら、子どもたちの健全育成に影響が出る。子どもたちがスポーツできる場づくりはぜひとも充実していかななくてはいけない。

・例えば、スポーツ少年団あたりを広げていけるとよいのだが、残念ながら岡崎市のスポーツ少年団は45、46くらいしかなく1,500人もいない。

・スポーツ少年団に対しては日本スポーツ協会が力を入れており、認定制度を設けて指導者を育てていこうとしている。

・また、愛知県ではスポーツ局ができた。スポーツに力を入れようとしている。ただし、スポーツレクリエーションフェスティバルの予算が削られるなど逆行している状況もある。

・岡崎市としてはなるべくお金をかけずに、具体的には資料にあるように、地域のクラブ・団体の支援、公共施設の有効活用を図りながら、子どもたちのスポーツの機会を提供していけるようにしていかないけない。

堀越会長 ・総合型地域スポーツクラブの立ち上げを推進しようということ。

三井委員 ・それには場所の問題、指導者の問題、そして一番はお金の問題がある。原則は、受益者負担で出し合ってやろうが大前提であるが、なかなかそれだけではできない。半田市や豊田市は市が主導し、職員が動いてバックアップした。

堀越会長 ・部活の受け皿を外にいかにかうまくつくるかについても推進計画で触れないといけない。

三井委員 ・子どもたちの健全育成の視点から大事な視点である。

杉山委員 ・子どもたちのスポーツ活動に関して、岡崎市には岡崎市子ども会育成者連絡協議会「(通称) 市子連」があり、そこでも子ども会のスポーツ活動を行っている。

・現在、子ども会も減ってきている中で、組織の見直しなどが行われている。

・スポーツの能力の高い子はスポーツ少年団で活動できるが、子ども会でお兄さ

んや姉さんたちと体を動かしてきた子どもたちの受け皿がなくなってしまうのではないか。

- 堀越会長 ・ 1 (1)「③子どものスポーツ機会の充実」の中に、そうした問題が本来入るべきであろう。
- 土赤委員 ・ 2 (1)「⑤トレーニングキャンプ等の誘致」とは、どのようなことを視野に入れているのかがいたい。
- 事務局 ・ どのようなキャンプをやるとか、宿泊施設をどうするといった具体的な施策があって記載したものではない。どちらかといえば意識向上を意図した。
- ・ 今回、「競技力向上」を体系の大きな柱の一つに取り上げてみた。宮崎市の野球キャンプのようなことをイメージされたかもしれないが、どこまでできるかはこれからの検討次第である。意識をもって誘致できるとよいという考えで取り上げさせていただいた。
- 廣委員 ・ 施策体系(案)について、個別施策の詳細はこれからの検討課題になるだろうが、基本目標の立て方は非常にわかりやすく良いというのが感想である。
- ・ SWOT分析の「脅威」の中に、学校の部活動の在り方が見直される可能性が高いとあるが、良い意味でチャンスととらえることができる。学校現場も部活動のことはとても悩んでいると思う。悩んでいるからこそ、「地域でいつでも受け入れますよ」と体制づくりができれば、それは大きなチャンスとなる。
- ・ 部活動を一生懸命やってきて、スポーツ競技に志向がある子にとって、『スポーツの競技力向上』を打ち出している岡崎市であればなんとかなるかも、地域で受け入れてもらえるかもと思ってもらえる。一つのきっかけになる。
- ・ こうした基本目標について、市民に理解してもらうことが大事であると思う。
- 堀越会長 ・ ある意味危機ではあるが、見直される良い機会としていければ。
- 上原委員 ・ 4の推進体制を構築するということで、色々な垣根を越えて意見交換してやっていくのだろうと感じた。色々な持ち場があって、異分野との交流があると新しい発想が生まれる。良い方向性であると思う。
- 三井委員 ・ 確かに、一般の人が見てわかりやすい組み立てになっている。
- 堀越会長 ・ 第2期計画の施策体系(案)については、大枠としては非常に分かりやすくなっている。
- ・ そのうえで、本日の協議にあったように、部活動の廃止に伴う子どもたちのスポーツ機会の問題や、総合型地域スポーツクラブのような取り組みの推進について、今後力を入れて取り組んでいく方策が明確に示されていけばよい計画となっていくと思う。
- ・ 計画が目指す方向としては良い方向かと思う。異論がなければご了解をいただいたということで、これで計画策定を進めていくこととしたい。

## ② 計画延長版のイメージについて(資料5)

- ・ 事務局より資料5を説明。

- 堀越会長 ・資料5についてはどうか。延長版については、基本的には体系は変更しないということであり、一部、「競技力の向上」、「観戦スポーツの推進」、「スポーツに関する情報提供の充実」については、延長版で若干触れていきたいということである。
- ・特に問題はないと考えるので、この考え方に沿って延長版の策定を進めていただきたい。

### 3. その他

#### ① 関係団体へのヒアリングについて（資料6）

- ・事務局より資料6を説明。

〈以下、各委員の意見等〉

- 土赤委員 ・スポーツの分野からすると、スイミングに関係するところが対象にない。公共施設ではげんき館しかなく、他は民間・個人経営になってしまうが、競技的ではなく健康づくりの一環で取り組んでいるようなところもご検討いただいてはどうか。

- 事務局 ・げんき館は前回計画策定時にもヒアリングしていたようなので、一度検討させていただく。

#### ② 第4回策定委員会について

- 事務局 ・次回は令和2年の1月下旬から2月上旬を予定している。日程は近づいたら事務局より調整させていただく。
- ・ヒアリング調査の結果、計画延長版の素案を提示したい。
  - ・また第2期計画に関しては、計画の前段になる、振り返り部分の初版のようなものが提示できればと考えている。

### 4. 閉会

(15時09分 閉会)